

一つのゴールと新たなスタート

茗溪塾塾長 長谷 誠基

2月末の公立高校の入試と国公立大学の入試で今年度の受験の大部分は終了となります。新型コロナに振り回された受験生達でしたが、無事受験ができたことは本当に幸いでした。入試が終わると決まって心を占めるのが、志望校に合格した生徒よりもあまりうまくいかなかった生徒への後悔にも似た気持ちです。「あのときこうしておけば…」とか「こうアドバイスできたのでは…」など次から次へと浮かんでくるのです。中学受験では第1志望校への合格率は25%ともいわれています。4人のうち3人は第1志望に行けないという厳しい現実を頭では理解していても、「だからしょうがない」とは考えられないものです。受験というのは「合格」と「不合格」という2つの結果しか出ませんので、どうしても「合格」＝「成功」、「不合格」＝「失敗」という式になってしまいます。しかし、これから長い人生を歩むときに本当にそうなのか？ということは考えなければいけません。これから、新しい学校に進学する人達に言いたいのは、これから通う学校を好きになってほしいということです。学校は全て自分に都合の良いようになっている理想郷のようなものではありません。通う学校で自分がどの位置にいて、どのように過ごしていくかは全てこれからの自分にかかっています。そのときに学校が好きであれば、勉強にも他のいろいろな活動にも積極的に取り組むことができます。そして、その後のことに良い影響が出てくるでしょう。つまり、この受験というものは1つのゴールではありますが、新たなスタートでもあるということです。つい先日、6年前の卒塾生が塾を訪ねてきてくれました。大学受験を終えて進学が決まったところで、近くに来たから寄ってくれたそうですが、昔の話をしていた時にその生徒も中学受験では第1志望校には合格できなかったのですが、中学に入ってから周りのレベルの高さにびっくりしたそうです。そしてこのままではおいて行かれると思い、勉強を頑張ったのだということでした。そのうちに目標が見つかり、この春から希望の大学に入るそうです。その生徒は学校生活がとても楽しかったと言ってくれました。それを聞いて本当に良かったと思いました。彼は入学してから自分がどうしなければいけないかに気づき、そして努力をしたのだと思います。それによって自分が確立していき、勉強面でも他の面でも良い循環が出来て行ったのだと思います。これから進学するみなさんは、是非学校を好きになり、自分がどうしなければいけないかをしっかり考えてほしいと思います。そして、充実した学校生活を送ってほしいと思います。